

メコンを結ぶ

これまで結ばれることのなかったメコンの各地域が、いままさに結ばれようとしています。

日本と、様々なメコン地域開発プログラムによって開発されつつある3つの経済回廊。

これまでになくヒトとモノの流れが活発化することで、メコンはいま、

大いなる希望と発展の未来を芽吹かせようとしています。

南北経済回廊

インドシナ半島を南北に縦断する回廊。中国雲南省・昆明を基点にタイ・バンコクまで南下するルートと、ベトナム・ハノイを結ぶ2つのルートに大別されます。

第二メコン国際橋



全長約1,600m。タイとラオスを結んでいます

ラオス国道9号線



タイからラオスを通ってベトナムに至る約240kmの幹線道路

ハイヴァントンネル



ベトナム中部地域の交通の難所であるハイヴァン峠に建設されたトンネル

東西経済回廊

インドシナ半島を東西に横断する回廊。ミャンマー・モラミヤインからタイ東北部を経由し、ラオス・サバナケット、ベトナム・ダナンを結ぶルートです。2006年12月には、タイ・ムクダハーンとラオス・サバナケットを結ぶ第二メコン国際橋が開通したことで、バンコクとハノイ・ホーチミン間は、従来、海上輸送で約2週間かかっていたのが陸上輸送で3-4日間に短縮されました。さらに、2008年1月に開催された日メコン外相会議で、日本政府は東西経済回廊及び南部経済回廊の物流効率化のために2,000万米ドルの支援を表明しました。物流インフラ整備の一層の進展が期待されています。

南部経済回廊

タイ・バンコクからカンボジア・プノンベンを経て、ベトナム・ホーチミンに至る回廊。タイとカンボジアの首都、そしてベトナムの大都市を結ぶ路線であり、現在は他の2つの回廊に比べて整備が遅れているものの、その完成によって大きな経済効果が期待される回廊です。

日メコン首脳会議・外相会議の開催

日本とメコン地域諸国(カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス)との間では、頻繁に二国間会談や多国間での会議が行われています。2008年1月には、メコン地域諸国の外相が東京に集い、記念すべき初の日メコン外相会議が開催されました。「日メコン交流年」である2009年には、10月に第2回日メコン外相会議がカンボジアのシアムリアップで開催されたのに続き、11月に日本とメコン地域諸国5か国の首脳による初めての日本・メコン地域諸国首脳会議が開催されました。また、2010年7月にベトナムのハノイで第3回日メコン外相会議が開催されました。

首脳会議では、「共通の繁栄する未来のための新たなパートナーシップ」を確立し、「総合的なメコン地域の発展」、「環境・気候変動(「緑あふれるメコン(グリーン・メコン)」に向けた10年)イニシアティブの開始)及び脆弱性克服への対応」、「協力・交流の拡大」の3本柱での取組を強化することで一致し、成果として「東京宣言」と63項目からなる「日メコン行動計画63」を発表しました。また、鳩山前総理大臣は、メコン地域全体及びカンボジア、ラオス、ベトナムに対するODAを拡充し、また、メコン地域全体で今後5年間で合計5,000億円以上のODA支援を実施することを表明するとともに、東アジア共同体構想において、メコン地域が鍵となる重要な地域であると強調しました。

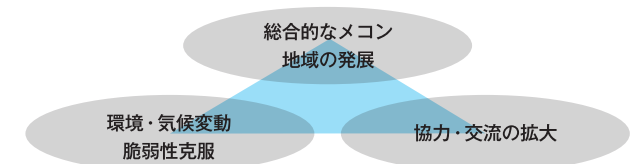


2009年10月 第2回日メコン外相会議(於:カンボジア・シアムリアップ)



2009年11月 日本・メコン地域諸国首脳会議(於:東京)(写真提供:内閣広報室)

日メコン協力:3本柱での取組



メコン地域の開発にかかわる様々な組織

ADB-GMS(アジア開発銀行 大メコン圏経済協力プログラム)

ADB(アジア開発銀行)の地域協力プログラム。メコン地域における開発課題への取組・支援において主導的な役割を果たしています。

ACMECS(エーヤワディー-チャオプラヤー-メコン経済協力戦略)

タイの提唱により設立。カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオスの5か国間の協力を通じた結果重視の開発を行うことを目的に活動しています。

MRC(メコン河委員会)

メコン河流域の開発と管理に関する常設の事務局を持つ唯一の国際機関。洪水緩和、渇水管理、農業灌漑、水力発電、水産といった分野で活動しています。